

「山に祈る」祈念塔の建設経緯

昭和34年12月、長野県警察本部は、遭難防止の願いをこめて、「山に祈る」と題する手記を発行したところ（遭難者の遺族）全国各方面から、大きな反響があり、購読の申込みや礼状が山をなした。

この時に寄せられた金が4万円程上廻ったため、何か御霊をなぐさめたいと考え、この趣旨に賛同する関係機関や各種団体と合同して、「山に祈る会」を結成、使途を協議したところ、この浄財を基金として遭難者の霊を鎮め、遭難事故防止の願いを込めた記念碑を作ることに決定した。

昭和37年6月、全国の山岳団体や学校山岳部の賛同を得て37万円が集められ山に祈る塔が、完成するはこびとなった。塔に付帯する山を形取った祠には、昭和18年頃からの遭難者の名を1名1名刻んだ小さな銅板が納められている。